

私たちの役割

梅光学院大学2年 寺田彩乃

8月13日～16日の3泊4日間、島根県で第11回韓日未来フォーラムが開催された。ただの親善交流ではなく、両国の問題について意見を交わしながら相互理解を深めるという点で、とても意味のあるプログラムであると感じる。特に現在日韓関係が良好ではない中、16人の学生が訪日してくれたこと、民間交流事業が中止になっていく中フォーラムが行われたことだけでもうれしく思う。私は小学生の時に韓国の文化と韓国語に興味を持つようになり、それと同時に日本と韓国の間には歴史的な問題がいくつも存在すること、それによって両国の関係が良いとは言えない状態であることも知った。高校生の時、実際に韓国人と交流することで韓国について知りたいという思いから、日韓交流事業を調べていた時に、地元である島根県で韓日未来フォーラムが行われていると知り、いつか必ず参加したいと思っていた。いつも政治問題や歴史認識に対する日韓での温度差、知識の差を感じていたため、今回お互いの立場からの意見を分かち合える場に参加することができ、感激している。

私は4つの主題の中から在日朝鮮韓国人を選んだ。今まで在日コリアンの友達と付き合い上で国籍について意識せず過ごしてきたが、そもそも在日コリアンとは何なのか何も知らなかったこと、また、ヘイトスピーチなどの差別が在日外国人、特に在日コリアンに向けて行われていることに疑問を感じており、様々な人の意見を聞きたいと思ったからだ。



写真：討論風景

討論では、当事者でなければ話すことが難しいのではないかと行き詰まることもあったが、実際に在日コリアンである方の助けもあり、当事者の思いを聞きながら自分たちができることについて焦点を当てた討論ができたと思う。討論をする中で新たに学んだことや、間違っていて認識していたこともあったため、こうして実際に話すことの重要さに気付くことができた。意外だったのが、韓国では全体的に在日コリアンに対する国民からの関心がないということだった。そのため討論の中で、韓国で行われる歴史教育の中に在日コリアンの存在も明記すべきだという意見が挙げられた。韓国では在日コリアンに対する無関心が、日本で

は在日外国人をはじめとする異文化へ対する差別意識の強さなどが差別の背景として考えられるという結論に至った。私たちは発表に向けて、在日朝鮮韓国人問題を過去、現在、未来に分けて、今まで起こった事件や解決に向けての両国の動きを調べ、在日コリアンの歩みと捉えることにした。特に差別がなぜ起こるのかという根本的な問題についてしっかり話し合うことで、日本人、韓国人、在日コリアンが一つになり歴史委員会を立ち上げてはどうかというアイデアにつながった。



写真：在日朝鮮韓国人討論チーム

発表中、頷きながらメモを取っている姿や、‘そうなんだ’というような反応を見ることができ、討論の成果を実感することができた。他のチームも、一つの主題を色々な視点から考えており、日韓お互いの立場を尊重し合っていることが伝わる発表内容だった。

討論を通して同じチームの人と仲が深まったことはもちろん、討論以外の場でも、出雲大社でのフィールドワークや、マントゲームなどでたくさんの友達ができた。3泊4日という短い時間を惜しみながら、言葉の壁も超え、両国の問題について意見を交わせる本当にお互いを理解した友達になることができた。



写真：ごはんの時間



写真：マニト発表にて

仲が深まり色々な話を交わす中で、今回訪日することを悩んだと話す学生が多く、思った以上に冷え込んでいる日韓関係の現状を感じることもあった。周りの人には日本に行くことを隠して来たという人も何人かいたが、それでもこのような時期にフォーラムに参加することによって友達になれたことに大きな意味があると思う。私も自分が韓国へ関心を持ち韓国の文化を楽しむことに対して、周りの人からマイナスな言葉を掛けられることが多かった。今まで出会ってきた韓国人や韓国留学での思い出などによる、自分自身が持つ韓国への思いと、周囲の韓国への印象のギャップを感じるたびにもどかしさを感じていた。国同士と人同士を分けて考えることは、実際に友達がいないと難しいことなのかもしれないが、今回フォーラムに参加した私たちが情報発信をすることで、日本人と韓国人を繋ぐ役割ができるのではないと思う。討論の主題のほとんどが、今回の日韓関係悪化に関係の深い内容だったが、お互いの思いを知るための民間交流の重要性を実感できた。これからもこの縁を大切に、ずっと長く友達でいられたらと思うと同時に、私たちの活動が周囲の人の誤解や偏見を解くきっかけになればいいと思う。



写真：集合写真